両陛下けさ福島をお発ち

夕刊
福島民報
発行所
福島市栄町廿一番地
福島民報社
編集兼印刷発行人高柳満寿
電話 代表 4111番

お手を振って御答禮

沿道 お名残り惜しむ大堵列

国体開会式に御来県の天皇、皇后両陛下は県民の熱狂的な奉迎のうちに廿日御滞在三日目を迎えられた。この朝七時半ゆっくり御起床になられ、両陛下は奉迎の花火もまぶしい程の日本晴れに御機嫌うるわしく八時卅分にはオートミール、オムレツ、プディング、フルーツ、トーストといった朝食をすまされた。沿道にはこのころから早くも日の丸を持った小、中学生、会社員、一般人らが続々つめかけてギッシリの人垣を作り、お通過の道筋には打水がしっとり含まれていた。

九時五十分きっかり両陛下が御泊所玄関に姿をお現しになった。特別拝謁を許された県関係部課長は御泊所右側植込みに整列、緊張した面持でお待ち申上げ、また玄関横には大竹知事家族全員が礼服に身を包んでかしこまった。天皇陛下にはきょうもネズミ色背広に濃灰色ソフト、皇后陛下は濃いグリーンのオーバーに黒ハンドバック姿で静かにお立ちになり、大竹知事家族に「このたびは長い間いろいろお世話様になりました」と御丁寧なお言葉を賜わり、部課長全員にも「お世話様になりました」とやさしくお言葉を賜わった。両陛下は自動車で直ちに第一小講堂のフェンシング会場にお成りになり、平沼審判長の御説明に深くうなずかれながら熱心に御観戦、十時十二分再びお車を召され、第一小、郵便局横、福ビル前のわずか二千米沿道を埋めた人々の熱狂的な「万歳」に御会釈を賜わりながら同十八分福島駅にお着きになった。県政始まって以来の両陛下の御来県に熱狂する県民についにお別れの時がきたのだ。玄関で車を降りられた天皇陛下にはお帽子を高々とお上げになって二度、三度「万歳」にお応えになりお名残り惜し気にお召車にお乗車遊ばされ、ホームに整列した人々の見送りを受けられ、十時廿分きっかり滑るように御発車になり仙台に向われた。

会津そばを「おかわり」

大竹県知事は十九日夜、両陛下の御夕食に会津名産そばを献上したが、両陛下から非常な御賞味を戴いた模様で、両陛下から「おかわり」があったとかで御泊所の奉仕者もすっかり感激している。また廿日の両陛下の中食御弁当を作って差上げた御泊所料理人の話によると、当日の御昼食はゴマと塩をふりかけた「おにぎり」で、別のお弁当にはコイの煮物と青鳥のツクネ焼きをお入れしたという。このおにぎりはノリ巻ずしのように御飯を棒状に固めたもので、これを手ごろの大きさに切ってある。

福島民友
発行所
福島民友新聞社
福島市中町六ノ[illegible]
電話代表 3637番
振替郡山 5070番

國体の大任果して

本社主催 最高責任者囲む座談会 ㊤

▽……天皇、皇后両陛下をお迎えし、全国数万の選手、役員、観客を集めて本県を中心に開かれた東北国体も無……△
▽……事に終つたが、初め至難の業といわれたこの〝民族の祭典〟の大行事を福島で開いてこんなに成功させる……△
▽……には陰に大きな苦労があり、全県民の心からの協力が大きく寄与している、そして国体のために一年で十……△
▽……年分の仕事が出来たといわれている諸施設の改善、整備を今後どう活用すべきか等本県文化、体育の向上……△
▽……のため多くの問題が残されている、本社はこれらについて国体運営の責任者たちにきく座談会を開いた……△

出席者（知事室にて向つて右から）福井本社社長、蓮沼県国体実行委員会会長、天野県国体実行委員、大竹知事、丹野県国体事務局長、和久本社編集局長、松坂同報道部長

無理しての御來縣

両陛下・車窓に映る縣民の歓迎に御満足

宮城、山形引ずった努力結実

本社 国体という大仕事が無事すんでホッとしておられると思いますが、なかなかご苦労が多かつたでしょうね

大竹 直接の問題はたいがい皆さんがやつてくれた、私はただそれを見ておつたというにすぎないけれども、こんどの国体は第一に天候に恵まれたことは非常な好運だつた、それから私にとっては何よりも陛下のお成りをいただいて万一のことでもあつたなら、ことにこんどは知事公舎をご宿舎にねがつただけに心配が多かつた、幸い何の事故もなく万事すませることができてホッとしているところです

本社 両陛下にも非常にご満足だつたということですね

両陛下そばのお代り

大竹 県民のみなさんが非常に熱誠こめて両陛下をお迎えした、私は宇都宮までお出迎えしたのですが、一歩本県にはいると各駅とも人があふれ、旗の波でうずまつていた、この有様をご覧になられて両陛下は非常にご満足のご様子に拝されました、またご宿舎においても私を呼ばれて、この阿武隈川は非常に景色のよいところだが、どんな魚がとれるかというつたお尋ねがあつたが、両陛下は非常にご興深くご覧になつておられました、また十九日の午後三時半[illegible]のソバをさし上げたところさし上げるときお付きの宮内事務官にちよつと反対があつたが、陛下は一ぱい召し上つてすぐお代りをなされた、こちらはお代りの用意をしていなかつたので廿分間もお待ち願つて召し上つていただいた様なことで、お食事も非常にお気に召されたようです

本社 洋食が多かつたようですが、陛下は洋食一きれ余さずみんなきれいに食べてしまわれたそうですね

蓮沼 またこんど高松宮様と秩父宮妃殿下のお二方で平、白河、郡山、若松、飯坂、福島と県下くまなくお回りねがつたのですが、宮様も非常にご満足になつておられました

大竹 秩父宮妃殿下が会津へ行かれたときは県民の歓迎ぶりが天皇陛下並みだつたそうです

本社 諸施設のほうは[illegible]側としてどうでした

大竹 それはこの場所で全国のみなさんを迎えてどうかと心配しましたが、出来上つてみたところでは決して恥かしくないものでした、これは蓮沼議長はじめ関係各位が非常にお骨折り下さつた上に県民の方々がほんとうに心から協力して下さつたたまもので、知事として非常に感謝しているところなのです

本社 いまも東京の人を送つていつてきたのだが、開会式なども非常に立派だつたとほめていた、ただ観衆としては陛下のお席があの低い屋根のメインスタンドの奥の方にあつたので、招待席や五百円席の人は陛下の席のすぐ近くの人をのぞいて他の人々はお姿がよく見えなかつた

本社 広島の時は陛下のお席が全会場からよく見える縁台に作つてあつたそうですね

丹野 あの時はお帰りの時も観衆の前を少しお歩きになつたそうです

ご病気で予定変更

蓮沼 それは陛下は病後のご静養中だつたため、順宮さまの結婚式もご出席にならなかつたほどでしたので、こんども侍医頭から階段を上り降りすることを出来るべく減らすようにというので、ご観覧になる個所も準備した、当初は陛下に競技にお出ましをねがい、満場の歓迎にお応え願う予定だつた、それができなかつたのは陛下のご健康の関係だつたのです

天野 その点は私は最後までがんばつた、天皇陛下のために大会をやるのじゃない、国民の祭典、民族の祭典に陛下にお出まし願うのだから、こちらの立場も考えていただくという関係から頑張つたんですが、もつと早く宮内庁に交渉しておよかつたと思うのです、ただ広島の場合は建物が違い郡山のグラウンドのようにスタヂイアムになつていた、お席が全会場から見えたのです、初めの予定では野球場までお歩きねがうわけだつた、ところがそれがむずかしいというので、それなら野球場はうち切るから会場までお徒歩でお出ましねがいたい、わずか四十米だからと最後までおねがいしたのだが、いま議長がいわれたような事情でダメになつたわけです

本社 しかし最初お迎えしたときのお顔色とお帰りになられるときのお顔色は違つて、お帰りのときはほんとうによくなつておられた、お出迎えしたときはご病後だナということがよくわかりましたね

丹野 そうでした、お出迎えした時はほんとうにこのようなおからだでよくお出でをねがつたと目頭が熱くなりました、お帰りのときはお顔色も非常にお元気そうになつておられましたね

三年の苦心実結ぶ

本社 こんな成功を収めるまでにはいろいろと苦心があつたと思いますが、それを一つお話し願いましょう

丹野 まア三年がかりでやつたわけだが、非常に段取りがうまくゆき、国家補助もそう仰がずにでき、少しの無理もなかつた、ここまで漕ぎつけるまでのヤマといえば開会式を仙台と福島で張合つたあたりだつたでしょう

天野 私どもの考え方は国体のお祭は開会式である、開会式の行事が終れば六十パーセント以上すんだとみていい、それほど大きな行事である、だから開会式を取らなければ国体を開催した意義がない、ところが三県共催でやつたら開会式が仙台へもつて行かれることは誰が考えてもきまつている、そこで最初は本県単独開催を主張したのです、それが三県共催でもよろしいと福島県民が納得するまでに約一年間かかつた、さらに開会式を福島でやることに決まるのに一年間かかつた

丹野 どうしても福島に開会式をもらいたいという本県の主張は無茶だとよくいわれたものです

天野 無茶でもあつた、しかし私からいわせると宮城はそもそも国体開催について福島に便乗したのだ、福島は国体誘致を議会で議決して、それを中央に何回ももつていつてようやく何とかなりそうだという時に宮城県がオレの方でもやらせてもらいたいと出てきた、そしてそれにまた山形県があとから便乗した

蓮沼 福島県は廿三年暮すでに非公式に声明し、県議会で決定した時は天野君が[illegible]国会に乗りこんでいる、それにしてもやはり三県共催で、開会式を仙台をさしおいて福島へもつてくるということは非常な政治力と押しがいつた

大竹 宮城県知事に会つたとき君の方の天野とかいう社会党が無茶をいうといつていた（笑声）

（つづく）

平衡金増額要望

一道七県で決議

【盛岡発】東北七県、北海道総務部長会議は廿五日午前九時五十分から県庁で一道七県各総務部長、関係者、東北自治協議会から木村参事が出席して開かれ①平衡交付金の交付額決定について市中交付金増額と交付基準額が相違する場合の調整案の方法および地方財政、収入額の算定について改正方を要望した②地方債増額について③廿八年度予算編成について④地方税制改正について 以上四点について各県からそれぞれ意見の開陳があって決議した